

新聞で見る少年の暴力事件

井戸平八郎（愛知淑徳短期大学）

1. はじめに

少年による事件が世間で騒がれてきたその理由の一つはマスコミの報道にあることは言うまでもない。次に、非行と犯罪のポダレス化した内容の事件が数多く起きているということ。第三に大人の視点から、理解しにくい事件が危機感を作り出していることなどによる。そこで、その現象を考察して見ることにする。

2. 取り上げた事件

主として1988（昭和63）年以降1998（平成10）年の間の暴力による少年事件を中日新聞に掲載された記事。80年の金属バットによる両親殺害事件、88年の女子高校生40日間監禁殺人コンクリート詰め事件、88年のアベック殺人事件93年1月の山形県マツト死事件、97年1月の神戸連続殺人事件、98（平成10）年1月の栃木県黒磯の女子教諭刺殺事件など注目すべき事件については他の新聞、週刊誌、月間雑誌などの記事を参考にする。

更に、静岡県、全国の統計、犯罪、非行に関する図書を参考にする。また教護院（自立援助施設）入所の事例も参考とする。

3. 少年事件の流れ 「凶悪・粗暴な非行」

1996（平成8）年に凶悪犯（殺人、強盗、放火及び強姦）で補導された刑法犯少年は1,496人「前年比205人（15.9%）増」で1991（平成3）年以降増加傾向が続いている。罪種別では強姦を除きいずれも増加したが、なかでも強盗が大幅に増加し、1989（平成元）年以降増加傾向が続いておりグループで短絡的に重大事件を引き起こす傾向が見られる。また、粗暴犯で補導した刑法犯少年は15,568人「前年比119人（0.8%）増」で、罪種別では傷害と恐喝が増加しており、なかでも、恐喝が5年連続増加している。

学識別にみると、特に高校生の事犯の増加が顕著で1992（平成4）年と比べ強盗が約2.2倍、恐喝が約1.9倍に急増している。

（平成9年版警察白書より）

また、警察庁によると

・殺人や強盗など凶悪犯罪（未遂を含む）を引き起こして摘発された少年（14才以上20才未満）は1997（平成9）年1月～11月で2,085人（16年ぶりに2,000人突破）

《同庁は『戦後第4の上昇期』と位置付け》

・強盗が前年同期比58.2%増の1,535人と急増そのうち高校生453人、中学生181人（増加率高校生41.1%、中学生86.6%）・摘発された少年1,810人のうち非行歴のなかった少年は約半数の900人。静岡県警によると1997（平成9）年1年間では凶悪犯罪による検挙、補導された少年59人（前年と同じ）のうち強盗事件36人。

⇒「以上1998（平成10）年2月2日の中日新聞より」

4. 10年間の暴力による少年事件が示すものは？

1988（昭和63）年～1998（平成10）年の間の事件（1980「昭和5」年の事例を含む）97件について。

（1）殺意について

全体として、結果は死に至っても至らなくても殺意を抱き計画的に行動した者が半数近く（40.2%）であり、あとの半数（56.7%）が流れの中で殺意を抱いたり、カッとなって犯行に及んでいる。

友人関係のトラブルは15件（15.5%）だが、小さな口論から発作的に殺害したのはそのうち7件。その他ホームレス、障害者（言葉の不自由な）、老人、通行人などの弱者を計画的に集団で襲撃したケースが多く（38件39.2%）見られる。

（2）動機・目的について

①始めから殺害を意図したもの19件、発作的に殺害したもの9件あわせて28件（未遂2件を含む）で97件中28.9%だが、殺害したケース47件中では26件（55.3%）と半数を超えている。

②暴行を目的とした結果殺害は47件中11件

③死に至らなかったが、強盗、恐喝17件（33.3%）

の中には動機が金銭・物欲しさであっても、被害者の生死には

無関心（邪魔なら殺す）。また、暴行、言いがかり、喧嘩においても簡単に傷害致死に及んでいる。

④通り魔事件2件、麦茶に毒物混入1件では加害者の遊戯的な満足感が感じられる。更に猥褻雑誌欲しさに殺害したり、中学の卒業式前日に恋人が式に出ると誰かに取られるのを恐れて殺害したケースもある。

⑤1993（平成5）年の山形県新庄市立明輪中学で起きたマット死事件はいじめによるものか、事故死か事実認定が難しく、裁判の在り方、少年法について問われている。これは学校の管理体制が問われる点でもある。

⑥精神異常に起因すると考えられる3ケースについては現代社会の心の深い点での問題を投げかけている。

（3）被害者との関係

被害者（97件）が親など親族11件（11.3%）、友人・恋人は27件（27.8%）、下級生2件（2.1%）、知人12件（12.4%）、見知らぬ人31件（32.0%）教師5件（5.2%）などとなっている。

その他世話になっていた人、障害者、ホームレス、OL、警官、先輩などがある。また、強盗事件で郵便局、銀行、駐在所などに押し入っているケースもある。

（4）凶器および残虐さについて

・刃物（ナイフ、包丁）によるものは39件（40.2%）あるがそのうち、ナイフは20件（20.6%）、包丁は17件（17.5%）、不明1件となっている。物で殴っているケースでは、鉄パイプ、ハンマ、木刀、スパナ、金属バットなど様々だが、鉈やスコップで数十回切りつけたもの、重さ13キロの石で何度もぶついたり、69才の老人をブーツで踏みつけ内臓器損傷に至るケースなどがある。また、首などを絞めたものに素手によるものは4ケースあるが、いずれも老人か女性という弱者。ベルト、ロープ、紐などで絞めたものの中では1988（昭和63）年2月のアベック殺人事件がある。「命乞いする被害者を長時間死の恐怖に晒し殺害」（1990「平成2」年の朝日新聞）。そのうえ「綱引きだぜ」と首を絞め、生死を確かめながら何度も引いている。

その他暴行、殺害の経過を見ていくとかなり残虐な事件も見られる。とりわけ80年の金属バットによる両

親殺害事件、88年両親・祖母殺害事件、同年女子高校生40日間監禁殺害コンクリート詰め事件、93年山形県のマット死事件、97年神戸連続殺傷事件などは極めて残虐な少年事件としてマスコミで騒がれた。

（5）加害者と被害者の人数

加害者が1人に対して被害者が1人のケースは97件中45件（46.4%）、加害者が複数に対して被害者が1人のケースは97件中36件（37.1%）と共に半数近くを占めている。前者の加害理由は様々だが、後者の加害理由ではケラチョ狩り、おやじ狩りなど退屈しのぎのいたずらから、暴走族グループや同級生などによる言いがかり、恐喝、暴行などが多い。また、いじめによるものではマットレス死事件、1994（平成6）年に起きた愛知県西尾市の大河内清輝君自殺の事件などがあるが、いじめによる暴行、恐喝、自殺などはかなり多くの数にのぼると思われる。今回は取り上げていない。

5. 考察

- （1）親子葛藤からの殺害
- （2）欲望のままに行動して殺害
- （3）短絡的な暴力行為による事件
- （4）抑圧された心的エネルギーの処理として
- （5）退屈が暴力事件へと
- （6）空想と現実の間で
- （7）精神異常に起因すると思われる殺害。

いずれの場合も共通して言えることは短絡的で精神的に未発達な歪み、イライラと「退屈」が混在している。6. まとめ

現代少年非行（万引きなどの窃盗、性非行も含め）の根は深く、複雑である。普通→非行→犯罪とボーダレス化している現象の中で少年事件を見ると「退屈」が多様な非行を産んでいる。その原因を慎重に分析検討する必要がある。F. RedlがControl from withinと言うように事件の多くは無意識の底にあるものによる感情の歪みを考えることが解決の一步と言える。佐瀬 稔氏が言った「この荒涼の風景は、自分たちが作ったものだ」は単純な「管理」では解決できない。現象だけで安易に「管理」（力）を考えヒットラーや東条英機を再生させることを私は最も恐れる。